

令和 3 年 5 月 22 日現在

機関番号：32634
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2016～2020
課題番号：16K02328
研究課題名(和文) チェコ・ゴシック研究 カレル4世とフスの時代の文化と精神

研究課題名(英文) Study of Czech Gothic

研究代表者
石川 達夫 (ISHIKAWA, Tatsuo)

専修大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：00212845
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、チェコ・ゴシックの文化と精神を総合的に捉え、諸作品に表れている特徴的な表象やモチーフ(ピエタと聖母子像など)を通してチェコ・ゴシックの特徴を探ることを目的とし、チェコ・ゴシックの建築・美術・文学・音楽、更にチェコ・ゴシックの政治・社会的背景について具体的に明らかにした。その際、特に、「国際ゴシック様式」のチェコの分枝として捉えられる「美麗様式」を鍵として、その成立、代表的諸作品、特徴を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ヨーロッパのゴシック文化の重要な一部でありながら、日本ではあまり知られていなかったチェコ・ゴシックの全体像とその政治・社会的背景を明らかにすると同時に、特にチェコ・ゴシック文化の華とも言うべき「美麗様式」とその代表的諸作品とその成立の背景を明らかにした。これによって、ゴシック研究を広げ、知られざるチェコ・ゴシック芸術の傑作を紹介し、チェコ・ゴシックと教会分裂、ペスト禍、宗教改革などとの関係についての知見を提供した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to comprehensively grasp the culture and spirit of Czech Gothic, and to explore the characteristics of Czech Gothic through the analysis of characteristic representations and motifs (such as Pieta and Madonna and Child) which are visible in various works. And I have concretely clarified the Czech Gothic architecture, art, literature, music, and the political and social background of Czech Gothic. Especially I have clarified the formation, representative works, and characteristics of the Czech "beautiful style", which is regarded as a Czech branch of the "international Gothic".

研究分野：人文学

キーワード：ゴシック チェコ プラハ 美麗様式 美しいピエタ 美しい聖母

1. 研究開始当初の背景

申請者は、科学研究費補助金基盤研究C(2009-11年度)を取得して行った「チェコ・バロック研究」において、ヨーロッパの代表的なバロック都市の一つでありながら知られざるプラハのバロックの全体像を明らかにし、イタリアやスペインのバロックとは異なるチェコ・バロックの特質と豊かさを示した。この研究の過程で、チェコ・バロックが南方のバロックと異なるものとなった大きな要因として、第一にチェコではゴシック文化が強力で広範に根付き、その影響がバロックの時代にまで残ったこと、第二にヨーロッパの宗教改革の先駆者となったヤン・フスに始まるチェコの異端的・宗教改革的運動(フス運動)とプロテスタントの精神がチェコにやはり強力で広範に根付き、その伝統がカトリックの対抗宗教改革の時代(つまりバロックの時代)においても根絶されずに作用していたこと、第三にフス運動と宗教戦争に阻害されてチェコではルネサンス様式があまり広がらず、ゴシック様式が非常に遅くまで続いたこと、つまりチェコの歴史に由来する固有の伝統があることが分かってきた。このため、チェコではゴシック様式とバロック様式が融合したような独特の様式(バロック的ネオ・ゴシック様式)や、プロテスタント的な緊迫性を持つバロック彫刻が生まれることになったと考えられるのである。

チェコでゴシック文化が栄えたのは、神聖ローマ皇帝・チェコ王カレル(カール)4世の時代である。カレルはプラハに生まれ、少年時代をフランスとイタリアで過ごした後、チェコ王国に帰ると母国を発展させようとし、様々な大事業によって「黄金のプラハ」と呼ばれる壮麗な大都市に変えると同時に、フランスとイタリア由来の文化をチェコの伝統に加えた。このようなゴシック時代の遺産は、プラハのみならず、チェコ各地に残っている。そして、チェコ・ゴシックの遺産としてはもちろん建築物だけではなく、この時代にキリスト教の浸透と共に作られた数多くの彫刻・絵画などもある。チェコ・ゴシックの遺産が各地に豊富に残されていて、それらの中にはチェコ的な特徴を持ったものがあると考えられる。

本研究は、ヨーロッパのゴシック文化の重要な一部であるチェコ・ゴシックを総合的に明らかにしながら、チェコ・ゴシックの特徴を析出し、それがチェコ・バロックに与えた影響をも探ろうとするものである。

2. 研究の目的

本研究は、科研費による研究をまとめた前著『プラハのバロック 受難と復活のドラマ』(みすず書房、2015年)を踏まえ、申請者がこれまで行ってきたチェコ精神史・文化史研究を更に発展させる形で行う。チェコ・ゴシック文化は、プラハを神聖ローマ帝国の首都としたカレル4世の時代を中心に発展し、後のバロック時代にも影響を与えてチェコ・バロックに固有の特質の形成を促したほど力に満ち溢れたものであった。本研究は、そのようなチェコ・ゴシックの文化と精神を総合的に捉え、建築・美術・文学・音楽などの諸作品に表れている特徴的な表象やモチーフ(例えばピエタと聖母子像など)を通してチェコ・ゴシックの特徴を探り、更にはチェコ・ゴシックがチェコ・バロックに具体的にどのような影響を与えたのかを明らかにすることを目的とする。特に、チェコ独自のうら若くて美しい聖母マリアを造形した「美しい聖母」や「美しいピエタ」について、これをチェコ・ゴシックの芸術の一つの顕著な特徴であり、チェコ・ゴシックを理解する鍵であると見なして、その成立・背景・特徴と、どのような作品があるかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、現地調査に基づく研究と文献に基づく研究によって、建築・美術・文学・音楽などの諸作品に表れている特徴的な表象やモチーフを通して、総合的にチェコ・ゴシックの全体像に迫る。研究方法は主として以下の通りである。

一つは現地調査に基づく研究である。チェコ各地の町に赴き、そこに残るゴシックの教会・修道院・美術館・博物館などに残るゴシックの彫刻・絵画・聖遺物等を調査し、撮影する。その際特に、ゴシック時代のヨーロッパでキリスト教の伝播、とりわけ大聖堂の建築と共に広まった聖母マリア崇敬に基づく聖母像に注目する。チェコでは多くの聖母像、とりわけピエタが制作されたこともあって、ゴシック時代の聖母像が多く残っている所があり、それらの聖母像を調査することによってチェコ・ゴシックの特徴を探ることができると思われるからである。

もう一つは文献に基づく研究である。チェコ・ゴシックに関するチェコ語の文献を収集すると同時に、ヨーロッパのゴシック一般に関する日本語の文献も収集して読解する。その際、単にゴシックの建築・美術だけではなく、チェコ・ゴシックの時代とその精神を全般的に理解するために、歴史・宗教・文学・音楽などに関する文献にも当たる。特にカレル4世とフス運動に関する文献は集中的に読み、チェコ・ゴシック文化の繁栄をもたらしたカレル4世がどのような精神の持ち主であり、どのように母国を変えて行ったのか、フランスとイタリア由来の文化にどのようなチェコの伝統を加えたのか、その中からどのようにしてフス運動が生まれてきたのか、カトリックの教会や文化財を破壊したことで知られるフス運動とその精神が(カレル4世に代表さ

れる)チェコ・ゴシック文化とその精神とどのような関係にあるのか、フス運動がチェコ・ゴシック文化にどのような要素を加えたのかを明らかにする。

4. 研究成果

本研究は、チェコ・ゴシックの文化と精神を総合的に捉え、諸作品に表れている特徴的な表象やモチーフ(ピエタと聖母子像など)を通してチェコ・ゴシックの特徴を探ることを目的とし、チェコ・ゴシックの建築・美術・文学・音楽、更にチェコ・ゴシックの政治・社会的背景について具体的に明らかにした。

研究全体の鍵となる「美麗様式」については、「国際ゴシック様式」のチェコの分枝として捉えられるものだが、特に教会大分裂とペスト大流行の時期に、第三代ブラハ大司教イェンシュテインのヤンがペストに感染して死に瀕したことをきっかけとして、彼が救いをもたらす聖母マリアを永遠に若くて美しい教会の象徴として表象し造形させたことが影響を与えて「美麗様式」が成立したことが分かった。そして、この「美麗様式」が、絵画・彫刻・建築などにおいて多くの優れた作品を生み、それはチェコ以外の中欧にも広まったことが分かった。更に、その「美麗様式」の代表的作品である「ロウドニツェの聖母」と「クシヴァークのピエタ」と同時期に、中世チェコ・ドイツ語文学の傑作である『ボヘミアの農夫』と、それに影響を受けたチェコ語の『織匠』も書かれ、これらの間には内的な関連があると考えられることも明らかにした。この時代にヨーロッパを襲ったペスト禍、教会大分裂と宗教改革、政治的権力と宗教的権力との確執、キリスト教の死生観、司牧神学などが背景となり、これらの諸作品の内的関連を生み出したものと考えられるのである。

また、「美麗様式」として表れたチェコの「国際ゴシック様式」とフランスやイギリスの「国際ゴシック様式」との繋がりも、王室どうしの姻戚関係などを通じて迎えることができた。全体として、チェコ・ゴシックの文化と精神を総合的に捉え、諸作品に表れている特徴的な表象やモチーフ(ピエタと聖母子像など)を通してチェコ・ゴシックの特徴を探るという目的は、かなり達成できたと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 石川 達夫	4. 巻 106
2. 論文標題 チェコ・ゴシック研究(2) チェコのカトリック教会とヴォルトのデザイン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 専修人文論集	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川 達夫	4. 巻 295
2. 論文標題 チェコ・ゴシック研究(1) オロモウツと「クシヴァークのピエタ」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 専修大学人文科学研究所月報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川 達夫	4. 巻 306
2. 論文標題 チェコ・ゴシック研究(3) チェコ・ゴシックの華、「美しい様式」の誕生と受難	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 専修大学人文科学研究所月報	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川 達夫	4. 巻 107
2. 論文標題 チェコ・ゴシック研究(4) カレル4世とチェコ・ゴシックの遺産	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 専修人文論集	6. 最初と最後の頁 123-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川 達夫	4. 巻 108
2. 論文標題 チェコ・ゴシック研究(5) チェコ・ゴシックの文学(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 専修人文論集	6. 最初と最後の頁 71-104
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------